

この病(病)気

知っておきたいこんなこと

このコーナーでは、当院医師がみなさんに知ってもらいたい病気についての様々な情報についてお知らせします。

第1回

胃がんの予防と検診

病院長 孝田雅彦

皆さんは胃がんが予防できることをご存じですか？

胃がんは日本人の癌死亡の第二位で、毎年5万人が亡くなっているにも関わらず、実は予防ができます。さらに、早期発見方法も確立しています。つまり、予防を行って毎年検診を受けていれば、胃がんで死ぬことの方が難しいのです。では、どうして毎年こんなに多くの人が亡くなるのでしょうか？それは予防を行わず、検診も受けないからです。また、そのことを知らないからかもしれません。ここでは胃がんの予防と検診についてお話しします。

胃がんの原因—ピロリ菌

日本人の胃がんは95%以上ピロリ菌(図)という細菌によって引き起こされます。ピロリ菌は1979年に発見され、胃潰瘍や十二指腸潰瘍を起こす菌であることが分かりましたが、日本人の研究者によって胃がんも起こすことが明らかとなりました。さらに、ピロリ菌を薬で除菌(菌を取り除く)することで胃がんの発生が減ることも分かりました。表のように40歳までに除菌をすればほぼ予防が可能ですし、それ以降でも胃がんの発生を大きく減らすことができます。除菌をするのが若ければ若いほど効果は高くなります。また、一度胃がんになり、治療した後も残った胃から新しく胃がんが発生するのを減らすこともできます。つまり、ほとんどの患者さんにとって除菌治療は価値があります。

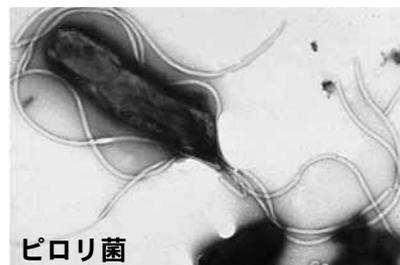
では、除菌とはどのようにするのでしょうか。きっと苦しい治療だろうと思っていませんか？とんでもない。風邪薬や便秘薬を飲むよりも楽です。たった1週間薬を飲むだけです。それで90%の患者さんのピロリ菌は消えてしまいます。ではどうして皆さん受けないのでしょうか？その原因は、おそらくピロリ菌がいるかどうかを調べるために、まず胃カメラを受けないといけないからです。皆さん胃カメラをするのがいやなのです。でも、まず1回だけ受けて下さい。胃カメラも口からが苦手な人は鼻からのカメラもあります。このように偉そうにしている私も除菌したのは実は5年前でした。除菌すれば良いことはもっと前から知っていたのですが、「ついつい」引き延ばしてしまっていました。症状がないと、この「ついつい」がくせ者です。多くの病気を手遅れにするのがこの「ついつい」です。面倒がらずに一度受けて下さい。

では、ピロリ菌を除菌すればそれで安心でしょうか？残念ながらそうはいきません。除菌してもこれまでピロリ菌によって傷ついた胃は元に戻ったわけではありません。子供の時に感染したピロリ菌が何十年もかけて痛め続けた胃です。治すには10年15年が必要です。その間は年一回の胃カメラを受けて下さい。そうすれば必ずカメラで治療できる早期の癌で発見でき、確実に治療が可能です。毎年胃カメラするのは大変と思われるかもしれませんが、10分がんばれば1年安心して暮らすことができます。まずは一度胃カメラを受けてください。ピロリ菌の有無を調べ、ピロリ菌を除菌し、毎年胃カメラを受ければ、胃がんで死ぬことはないのです。自分だけでなく、家族の人にも勧めて下さい。

胃がんの95%はピロリ菌が原因

たった
ピロリ菌の除菌: 1週間の内服治療

年齢	胃がんになる率
40歳	ほぼ0%
50歳	70%減
60歳	50%減
70歳	30%減



除菌した後も毎年胃カメラで早期発見